

一人一人が輝く、楽しい友田小学校へ向けて

1. 指導法の工夫や授業の質的向上に努め、学ぶ意欲を高めて基礎的基本的な学力の定着を図る。
2. 不登校、いじめ、荒れのない安心と信頼の学級・学年づくりを図る。
3. 保護者・地域と連携し、地域の教育力を取り入れながら教育活動の充実を図る。

そのために、次の4つの柱を立て、教育活動を充実させる。

【確かな学力の向上】

- 始業・終業のあいさつをはじめ学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境をつくる。
- 授業時数を確保することはもとより、一単位授業の充実を図り、確かな学力を保障する。
- 言語活動・読書活動に力を入れ、適切な表現力を伸ばす教育活動を工夫し、授業改善を行う。
- タブレットなどICT機器の有効活用、紙とデジタルの有用性を考慮し、学習指導を充実させる。
- 家庭学習（宿題等）を毎日課すことを原則とし、電子ドリル等も活用して家庭学習の習慣化を図る。
- 朝学習を計画的に進め、基礎的な知識・技能の定着を図る。
(火曜日…算数「友小ドリル」、木曜日…電子ドリル)
- 教室環境・学年の掲示板、校舎内外における環境整備を図り、情操を養い、子供の学ぶ意欲を高める。

【豊かな心の育成】

- 校内・家庭・地域で自ら進んであいさつができるようにする。
- 「友田の子」をみんなで守るマナーとして意識させ、学校内外で心がけられるよう働きかける。
- 「特別の教科 道徳」の授業の充実を図り、自己の生き方を振り返り、実践力を高める。
- 丁寧で正しい言葉遣いの指導を徹底する。(T…時、P…場、O…「～にふさわしい」への意識付け)
- 子供と教師、子供同士の人間関係を深め、安心と信頼の学級を築く。
- 特別活動（児童会活動・学級活動・縦割り班活動など）を充実し、自己実現を図り、思いやりの心を培う。
- 生活指導目標を基に具体的に指導し、規範意識を育て、他者を大切にすることを育成し、いじめゼロを目指す。
- 清掃活動や当番活動、委員会活動などを充実させ、勤労することの大切さを体得させる。
- 特別支援教育の充実を図る。（理解教育、児童が安心して学べる環境整備、校内委員会の機能強化など）

【健やかな体の育成】

- 体育指導（運動の量・質など）を充実させ、体力向上、健康増進、運動の日常化に努める。
- 外遊びを奨励し、持久走旬間・縄跳び旬間を実施し、運動に親しみ、体力を高める。
(「1日に一度は外に出て遊ぼう!」を呼びかける。暑い時期の体育館遊びの拡充)
- 定期健康診断の結果や児童の実態をもとに児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努める。

【地域と共に歩む学校づくり】

- 学校公開および学校評価アンケートの実施、学校だよりなどの各種便り、ホームページやメール配信などを適時発信し、保護者や地域との連携を深める。
- 「自然や地域とともに」をモットーに、地域の教育力を活用し、郷土の人や文化に触れる機会を通して、郷土を愛する心を育てる。
- 保護者からの相談や連絡などに、いつでも丁寧に応じ、早期解決に努める。

【その他】

- 校内研究、授業研修（OJT）や学び合いを通して、教員の資質や指導力向上を図る。
- 週案の作成・充実を通して、常に計画（P）・実行（D）・評価（C）・改善（A）を行い、授業の質的充実を図る。（学習指導要領の主旨である「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。）
- 「チーム友田小」として、教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、協働して指導する。
(「報告・連絡・相談」を大切に、一人一人が、責任と課題意識をもって校務分掌に取り組む。)
- 業務の見直しおよび業務の効率化、連携、助け合いなど、働き方改革および働きがい改革を推進する。
- 開校50周年の準備を始める。（友田小の歩みや伝統を振り返り、次代につなげる。）